



## 発刊にあたり

京都大学は膨大な数の中小企業や零細企業を抱える団地のようなものです。しかし、零細であっても中小企業であっても、そこにいる研究者たちは、確信を持ってその分野の世界一を目指しています。研究成果という産物を世界に出荷し、また学生たちを教育して次の世代の跡継ぎや別の分野の創設をはかっています。そんなたくさんの大物を束ねて京都大学という大きな船の舵取りをするのが私の仕事です。学長は、法人法の趣旨によってリーダーシップを発揮するよう求められているわけですが、京都大学では、ボトムアップをもとにするリーダーシップを基本としてまいりました。

大学は、日本の教育と研究の中心であり、これらを通して市民の生活に貢献する責務を持っていますが、教育も研究も、自由かつ自主的におこなわれてはじめて、その役割を果たすことができるのです。また、市民の皆様にはわかりやすい言葉で説明し、理解してもらって、はじめて研究の成果が生きてくると思います。

京都大学は、1日あたり約3億4千万円を支出する大学であり、この財源は学生の納付金、国民の税金、企業や個人の寄付など、さまざまな人々の努力でまかなわれています。政府からの交付金がどんどん減額されている現状ですが、効率よくそれを使いながら使命を果たしていく一方、大学の活動を市民の皆様には理解してもらうことが重要だと考えています。

私は就任当初から、京都大学をガラス張りの大学にするために、広報組織を整備して、大学というものの中身を市民の皆様には知っていただくよう努力してまいりました。本報告書の作成もそんな取り組みのひとつです。法人化してから1年間の大学の動きを、7名の理事が各担当職務に基づき説明するというスタイルを取っています。市民の皆様には目を通していただき、この1年の活動を評価していただけたら、と思います。

京都大学総長 尾池和夫